

学校コード F123310106791

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

愛知学泉大学 家政学部 ライフスタイル学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人安城学園

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

職名・氏名

ジムチョウ ロクゴキョウジ
事務長・六郷恭二

電話番号

0564-34-1212

(夜間)

090-1751-5560

e-mail

alex@gakusen.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

家政学部

<ライフスタイル学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 安城学園

(2) 大学名

愛知学泉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒444-8520

愛知県岡崎市舳越町上川成28

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(テラベ アキラ) 寺部 暁 (平成8年5月)		
学長	(テラベ アキラ) 寺部 暁 (平成28年4月)		
学部長	(アンドウ アケミ) 安藤 明美 (平成26年4月)		
学科長等	(ニワ セイジロウ) 丹羽 誠次郎 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
家政学部 ライフスタイル学科 学士(家政学)	家政関係	4年	40人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	160人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	0.99倍	1倍	0.86倍	1倍	
	志願者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()						
	受験者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()						
	合格者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()						
B	入学者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()						
	入学定員超過率 B/A					1.07		1.02		0.9		0.98							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生は記入しないでください。**
- ・ [] 内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。**計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。**なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	43 [—] (—)	— [—] (—)	41 [—] (—)	— [—] (—)	37 [—] (—)	— [—] (—)	40 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	42 [—] (—)	— [—] (—)	40 [—] (—)	— [—] (—)	36 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	45 [—] (—)	— [—] (—)	38 [—] (—)	— [—] (—)	
4年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	42 [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	43 [—] (—)	— [—] (—)	83 [—] (—)	— [—] (—)	122 [—] (—)	— [—] (—)	156 [—] (—)	— [—] (—)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	43 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	進路変更(2人)
令和3年度	83 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	122 人	4 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
			令和3年度	2 人	0 人	進路変更(2人)
			令和4年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
令和5年度	156 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		6 人		6 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{43} = \boxed{4.65} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{83} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{122} = \boxed{3.27} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{156} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<家政学部 ライフスタイル学科>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	潜在能力の開発	1前	2								1	
	心理学	1前		2							1	
	人間関係とコミュニケーション	2前		2							1	
	社会学	3後		2				1				
	生活経済論	1後		2							1	
	日本国憲法	3前		2							1	
	生活学概論	1後		2							1	
	家族論	3前		2				1				
	情報リテラシーⅠ	1前		1		1				1		
	情報リテラシーⅡ	1後		1		1				1		
	未来へつなぐアウトリーチⅠ	1前		1		5		3				
	未来へつなぐアウトリーチⅡ	2前		1		5		3				
	小計 (13科目)	—	10	11	0	5	0	3	0	2	6	
	保健体育分野	運動の科学	1前		2							1
	体育実技	1後		1								1
	小計 (2科目)	—	0	3	0	0	0	0	0	0	1	
	外国語分野	英語	1前		1							1
	英会話	1後		1								1
	中国語	2前		1								1
	ハングル	2後		1								1
	日本語Ⅰ	1前		1								1
日本語Ⅱ	1後		1								1	
小計 (6科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0	3		
その他	単位認定A			1								
単位認定B				1								
小計 (2科目)	—	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
専門科目	ライフスタイル学基礎講座	1前	2			5		3				
	ライフスタイル学演習Ⅰ	1前	2			1		2		1		
	ライフスタイル学演習Ⅱ	1後	2			2		1		1		
	ライフスタイル学演習Ⅲ	2前	2			3				1		
	衣生活論	1前	2								1	
	食生活論	1後	2			1						
	住生活論	1前	2			1						
	スタジオ入門	2後	2			5		3		2		
	インターンシップ論	2後		1		2						
	インターンシップ	3前		2		1						
	キャリアデザイン講座	3後		2		1						
	卒業研究	4通	4			5		3				
	国内研修旅行	1前	1			1		1				
小計 (13科目)	—	21	5	0	5	0	3	0	2	1		

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	潜在能力の開発	1前	2								1	
	心理学	1前		2				1				
	人間関係とコミュニケーション	2前		2							1	
	社会学	3後		2				1				
	生活経済論	1後		2							1	
	日本国憲法	3前		2							1	
	生活学概論	1後		2							1	
	家族論	3前		2				1			1	
	情報リテラシーⅠ	1前		1		1				1		
	情報リテラシーⅡ	1後		1		1				1		
	未来へつなぐアウトリーチⅠ	1前		1		6		1	1			
	未来へつなぐアウトリーチⅡ	2前		1		6		1	1			
	小計 (13科目)	—	10	11	0	6	1	1	0	2	6	
	保健体育分野	運動の科学	1前		2							1
	体育実技	1後		1								1
	小計 (2科目)	—	0	3	0	0	0	0	0	0	1	
	外国語分野	英語	1前		1							1
	英会話	1後		1								1
	中国語	2前		1								1
	ハングル	2後		1								1
	日本語Ⅰ (未開講)	1前		1								1
日本語Ⅱ (未開講)	1後		1								1	
小計 (6科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0	3		
その他	単位認定A			1								
単位認定B				1								
小計 (2科目)	—	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
専門科目	ライフスタイル学基礎講座	1前	2			6		1	1			
	ライフスタイル学演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		1	
	ライフスタイル学演習Ⅱ	1後	2			2		1	0		1	
	ライフスタイル学演習Ⅲ	2前	2			3					1	
	衣生活論	1前	2						1			
	食生活論	1後	2			1						
	住生活論	1前	2			1						
	スタジオ入門	2後	2			6		1	1		2	
	インターンシップ論	2後		1		2						
	インターンシップ	3前		2		1						
	キャリアデザイン講座	3後		2		1						
	卒業研究	4通	4			6		1	1			
	国内研修旅行	1前	1			1			1			
小計 (13科目)	—	21	5	0	6	1	1	0	2	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	1後		2								1
	服飾文化論	2前	2					1				
	ファッショントレンド	4前		2								1
	ファッションコーディネート	2前		1								1
	ファッション造形学	2後		2				1				
	アパレル科学	2後		2								1
	アパレル科学実験	3前		2							1	1
	ファッション造形実習Ⅰ	1後	2					1			1	
	ファッション造形実習Ⅱ	3前		2				1			1	
	住文化論	2前	2									1
	住居管理論	3前		2								1
	住宅計画	2後		2								1
	インテリアデザインⅠ(住宅)	1後	2				1				1	
	インテリアデザインⅡ(商業施設)	3後		2							1	1
	ベーシックデザイン	2前		2			1				1	
	デジタルデザイン演習	2後		1			1				1	
	ソーシャルメディア活用Ⅰ(写真)	3前		1			1				1	
	ソーシャルメディア活用Ⅱ(動画)	3後		1							1	1
	スタジオA(空間・情報デザイン)	3通		4			1		1			
小計(19科目)	—	8	28	0	1	0	1	0	2	7		
食品開発・マネジメントの科目群	化学	1前		2								1
	生物学	1前		2		1						
	食品学	1後		2		1						
	食品学実験	2前		2		1				1		
	フードスペシャリスト論	3後		2		1						
	栄養学	2前		2		1						
	調理学	3前		2		1						
	調理学実験	3後		2		1				1		
	基礎調理実習	1前	2			1				1		
	フードコーディネート実習	2前		2						1	1	
	ジュニアマーケティング実習(製菓・カフェ)	2後		2						1	1	
	食品衛生学(食関連法規)	2後		2		1						
	食品衛生学実験	3前		2						1	1	
	食品加工学	2前		2		1						
	食品加工学実験	2後		2		1				1		
	世界の食文化	1後	2									1
	地域と食文化	3後		2								1
	食品機能論	2後		2								1
	商品開発	3前		2								1
健康と栄養	4前		2								1	
スタジオB(食開発)	3通		4		2							
小計(21科目)	—	4	40	0	2	0	0	0	2	6		
ビジネス・地域活性の科目群	教育論(実習及び家庭看護を含む。)	2後		2								1
	ジェンダー論	4後		2								1
	消費生活論	4前		2								1
	マーケティング	2前		2								1
	生涯学習概論	4前		2								1
	地域ブランド論	2前		2			1					
	地域の暮らしと生産	1後		2		1		1				
	家庭電気・機械及び情報処理	3後		2		1						
	データ解析法(統計学を含む。)	2前		2		1						
	リサーチリテラシー	1前	2					1				
	プレゼンテーション基礎	1後	1									1
	ビジネスプレゼンテーション演習	2後	1								1	1
	イベントプロデュース演習	3前		1								1
	流行論	2前		2				1				
	サブカルチャー論	3後		2				1				
	スタジオC(地域活性)	3通		4		2		2				
小計(16科目)	—	4	27	0	3	0	2	0	1	7		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	1後		2								1
	服飾文化論	2前	2					1				
	ファッショントレンド	4前		2								1
	ファッションコーディネート	2前		1								1
	ファッション造形学	2後		2				1				1
	アパレル科学	2後		2								1
	アパレル科学実験	3前		2							1	1
	ファッション造形実習Ⅰ	1後	2					1			1	
	ファッション造形実習Ⅱ	3前		2				1			1	
	住文化論	2前	2									1
	住居管理論	3前		2								1
	住宅計画	2後		2								1
	インテリアデザインⅠ(住宅)	1後	2				1				1	
	インテリアデザインⅡ(商業施設)	3後		2							1	1
	ベーシックデザイン	2前		2			1				1	
	デジタルデザイン演習	2後		1			1				1	
	ソーシャルメディア活用Ⅰ(写真)	3前		1			1				1	
	ソーシャルメディア活用Ⅱ(動画)	3後		1							1	1
	スタジオA(空間・情報デザイン)	3通		4			1		1			
小計(19科目)	—	8	28	0	1	0	1	0	2	9		
食品開発・マネジメントの科目群	化学	1前		2								1
	生物学	1前		2		1						
	食品学	1後		2		1						
	食品学実験	2前		2		1					1	
	フードスペシャリスト論	3後		2		1						
	栄養学	2前		2		1						
	調理学	3前		2		1						
	調理学実験	3後		2		1					1	
	基礎調理実習	1前	2			1					1	
	フードコーディネート実習	2前		2							1	1
	ジュニアマーケティング実習(製菓・カフェ)	2後		2							1	1
	食品衛生学(食関連法規)	2後		2		1						
	食品衛生学実験	3前		2						1	1	
	食品加工学	2前		2		1						
	食品加工学実験	2後		2		1					1	
	世界の食文化	1後	2									1
	地域と食文化	3後		2								1
	食品機能論	2後		2								1
	商品開発	3前		2								1
健康と栄養	4前		2								1	
スタジオB(食開発)	3通		4		2							
小計(21科目)	—	4	40	0	2	0	0	0	2	5		
ビジネス・地域活性の科目群	教育論(実習及び家庭看護を含む。)	2後		2								1
	ジェンダー論	4後		2								1
	消費生活論	4前		2								1
	マーケティング	2前		2								1
	生涯学習概論	4前		2								1
	地域ブランド論	2前		2						1		
	地域の暮らしと生産	1後		2		1		1				
	家庭電気・機械及び情報処理	3後		2		1						
	データ解析法(統計学を含む。)	2前		2		1						
	リサーチリテラシー	1前	2					1				
	プレゼンテーション基礎	1後	1									1
	ビジネスプレゼンテーション演習	2後	1								1	1
	イベントプロデュース演習	3前		1								1
	流行論	2前		2							1	
	サブカルチャー論	3後		2							1	
	スタジオC(地域活性)	3通		4		2		2			1	
小計(16科目)	—	4	27	0	4	0	1	0	1	6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	教育原理	1後			2	1						
	教職入門	1前			2							1
	教育制度論	1後			2							1
	発達心理学	1前			2			1				
	教育心理学	1後			2			1				
	特別支援教育論	2後			2							1
	教育課程論	3前			2	1						
	家庭科教育法A	2前			2							1
	家庭科教育法B	2後			2							1
	家庭科教育法C	3前			2							1
	家庭科教育法D	3後			2	1						
	道徳教育の理論と実践	3後			2	1						
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	1						
	特別活動の指導法	3後			2	1						
	教育方法論	2後			2	1						
	生徒指導論	2後			2			1				
	教育相談（「カウンセリング」を含む。）	3前			2							1
	特別指導論（キャリア教育を含む。）	3後			2			1				
	教育実習指導	4前			1	1		1				
	教育実習A	4前			2	1		1				
教育実習B	4前			4	1		1					
教職実践演習（中・高）	4後			2	1		1					
ボランティア活動（介護等体験実習）	3後			1	1		1					
小計（23科目）	—		0	0	46	2	0	1	0	0	7	
合計（115科目）	—		47	122	46	5	0	3	0	2	34	

卒業要件及び履修方法

卒業要件：共通科目24単位以上（うち必修科目10単位、外国語分野から2単位、選択科目12単位以上）、専門科目96単位以上（うち必修科目37単位、選択必修科目4単位、選択科目55単位以上）合計124単位以上修得すること
（履修科目の登録の上限：48単位（年間））
資格要件：中学校教諭一種免許＜家庭＞ 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位、教科に関する科目34単位（必修）、教職に関する科目33単位（必修）、教科又は教職に関する科目（選択必修1単位以上）
高等学校教諭一種免許＜家庭＞ 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位、教科に関する科目34単位（必修）、教職に関する科目29単位（必修）
※教職に関する科目は全て自由科目。
フードスペシャリスト フードスペシャリストになるための必修科目24単位（必修）
※認定試験に合格する必要がある。
商品プランナー 商品プランナーになるための必修科目2単位（必修）
※認定試験に合格する必要がある。
スポーツインストラクター スポーツインストラクターになるための必修科目3単位（必修）
※認定試験に合格する必要がある。
商品装飾展示士3級
※認定試験に合格する必要がある。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	教育原理	1後			2	1						
	教職入門	1前			2							1
	教育制度論	1後			2							1
	(廃止)											
	教育心理学	1後			2			1				
	特別支援教育論	2後			2							1
	教育課程論	3前			2							1
	家庭科教育法A	2前			2							1
	家庭科教育法B	2後			2							1
	家庭科教育法C	3前			2							1
	家庭科教育法D	3後			2	1						
	道徳教育の理論と実践	3後			2							1
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	1						
	特別活動の指導法	3後			2	1						
	教育方法論	2後			2	1						
	生徒指導論	2後			2			1				
	教育相談（「カウンセリング」を含む。）	3前			2							1
	特別指導論（キャリア教育を含む。）	3後			2			1				
	教育実習指導	4前			1	1		1				
	教育実習A	4前			2	1		1				
教育実習B	4前			4	1		1					
教職実践演習（中・高）	4後			2	1		1					
ボランティア活動（介護等体験実習）	3後			1	1		1					
小計（22科目）	—		0	0	44	2	1	1	0	0	7	
合計（114科目）	—		47	122	44	5	1	1	0	2	34	

卒業要件及び履修方法

卒業要件：共通科目24単位以上（うち必修科目10単位、外国語分野から2単位、選択科目12単位以上）、専門科目96単位以上（うち必修科目37単位、選択必修科目4単位、選択科目55単位以上）合計124単位以上修得すること
（履修科目の登録の上限：48単位（年間））
資格要件：中学校教諭一種免許＜家庭＞ 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位、教科に関する科目34単位（必修）、教職に関する科目33単位（必修）、教科又は教職に関する科目（選択必修1単位以上）
高等学校教諭一種免許＜家庭＞ 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位、教科に関する科目34単位（必修）、教職に関する科目29単位（必修）
※教職に関する科目は全て自由科目。
フードスペシャリスト フードスペシャリストになるための必修科目24単位（必修）
※認定試験に合格する必要がある。
商品プランナー 商品プランナーになるための必修科目2単位（必修）
※認定試験に合格する必要がある。
スポーツインストラクター スポーツインストラクターになるための必修科目3単位（必修）
※認定試験に合格する必要がある。
商品装飾展示士3級
※認定試験に合格する必要がある。

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助		
学部共通科目	潜在能力の開発	1前	2								1	
	心理学	1前		2				1				
	人間関係とコミュニケーション	2前		2							1	
	社会学	3後		2		1						
	生活経済論	1後		2							1	
	日本国憲法	3前		2							1	
	生活学概論	1後		2							1	
	家族論	3前		2		1						
	情報リテラシーⅠ	1前		1		1					1	
	情報リテラシーⅡ	1後		1		1					1	
	未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1前		1		6		2				
	未来へつなぐアウトリーチⅠ	1前		1		6		2				
	未来へつなぐアウトリーチⅡ	2前		1								
	小計(13科目)	—		10	11	0	6	0	2	0	2	6
	保健体育分野	運動の科学	1前		2							1
		体育実技	1後		1							1
		小計(2科目)	—		0	3	0	0	0	0	0	1
	外国語分野	英語	1前		1							1
		英会話	1後		1							1
		中国語	2前		1							1
		ハングル	2後		1							1
		日本語Ⅰ(未開講)	1前		1							1
		日本語Ⅱ(未開講)	1後		1							1
	小計(6科目)	—		0	6	0	0	0	0	0	3	
	その他	単位認定A			1							
		単位認定B			1							
		小計(2科目)	—		0	2	0	0	0	0	0	0
専門科目	ライフスタイル学基礎講座	1前		2		6		2				
	ライフスタイル学演習Ⅰ	1前		2		1		2		1		
	ライフスタイル学演習Ⅱ	1後		2		2		1		1		
	ライフスタイル学演習Ⅲ	2前		2		3				1		
	衣生活論	1前		2				1				
	食生活論	1後		2		1						
	住生活論	1前		2		1						
	スタジオ入門	2後		2		6		2		2		
	インターンシップ論	2後		1		2						
	インターンシップ	3前		2		1						
	キャリアデザイン講座	3後		2		1						
	卒業研究	4通		4		6		2				
	国内研修旅行	1前		1		1		1				
小計(13科目)	—		21	5	0	6	0	2	0	2	0	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助		
学部共通科目	潜在能力の開発	1前	2								1	
	心理学	1前		2				1				
	人間関係とコミュニケーション	2前		2							1	
	社会学	3後		2		1						
	生活経済論	1後		2							1	
	日本国憲法	3前		2							1	
	生活学概論	1後		2							1	
	家族論	3前		2		1						
	情報リテラシーⅠ	1前		1		1					1	
	情報リテラシーⅡ	1後		1		1					1	
	未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1前		1		6		2				
	未来へつなぐアウトリーチⅠ	1前		1		6		2				
	未来へつなぐアウトリーチⅡ	2前		1								
	小計(13科目)	—		10	11	0	6	0	2	0	2	6
	保健体育分野	運動の科学	1前		2							1
		体育実技	1後		1							1
		小計(2科目)	—		0	3	0	0	0	0	0	1
	外国語分野	英語	1前		1							1
		英会話	1後		1							1
		中国語	2前		1							1
		ハングル	2後		1							1
		日本語Ⅰ(未開講)	1前		1							1
		日本語Ⅱ(未開講)	1後		1							1
	小計(6科目)	—		0	6	0	0	0	0	0	3	
	その他	単位認定A			1							
		単位認定B			1							
		小計(2科目)	—		0	2	0	0	0	0	0	0
専門科目	ライフスタイル学基礎講座	1前		2		6		2				
	ライフスタイル学演習Ⅰ	1前		2		1		2		1		
	ライフスタイル学演習Ⅱ	1後		2		2		1		1		
	ライフスタイル学演習Ⅲ	2前		2		3				1		
	衣生活論	1前		2				1				
	食生活論	1後		2		1						
	住生活論	1前		2		1						
	スタジオ入門	2後		2		6		2		2		
	インターンシップ論	2後		1		2						
	インターンシップ	3前		2		1						
	キャリアデザイン講座	3後		2		1						
	卒業研究	4通		4		6		2				
	国内研修旅行	1前		1		1		1				
小計(13科目)	—		21	5	0	6	0	2	0	2	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	1後		2							1
	服飾文化論	2前	2					1			
	ファッショントレンド	4前		2							1
	ファッションコーディネート	2前		1							1
	ファッション造形学	2後		2							1
	アパレル科学	2後		2							1
	アパレル科学実験	3前		2						1	1
	ファッション造形実習Ⅰ	1後	2					1		1	
	ファッション造形実習Ⅱ	3前		2				1		1	
	住文化論	2前		2							1
	住居管理論	3前		2							1
	住宅計画	2後		2							1
	インテリアデザインⅠ (住宅)	1後	2				1				1
	インテリアデザインⅡ (商業施設)	3後		2							1
	ベーシックデザイン	2前		2			1				1
	デジタルデザイン演習	2後		1			1				1
	ソーシャルメディア活用Ⅰ (写真)	3前		1			1				1
	ソーシャルメディア活用Ⅱ (動画)	3後		1							1
	スタジオA (空間・情報デザイン)	3通		4			1		1		
	小計 (19科目)	—	8	28	0	1	0	1	0	2	9
食品開発・マネジメントの科目群	化学	1前		2							1
	生物学	1前		2			1				
	食品学	1後		2			1				
	食品学実験	2前		2			1			1	
	フードスペシャリスト論	3後		2			1				
	栄養学	2前		2			1				
	調理学	3前		2			1				
	調理学実験	3後		2			1			1	
	基礎調理実習	1前	2				1			1	
	フードコーディネート実習	2前		2						1	1
	ビジュアルマーケティング実習 (販売・カフェ)	2後		2						1	1
	食品衛生学 (食関連法規)	2後		2			1				
	食品衛生学実験	3前		2			1			1	
	食品加工学	2前		2			1				
	食品加工学実験	2後		2			1			1	
	世界の食文化	1後	2								1
	地域と食文化	3後		2							1
食品機能論	2後		2							1	
商品開発	3前		2							1	
健康と栄養	4前		2							1	
スタジオB (食開発)	3通		4			2					
小計 (21科目)	—	4	40	0	2	0	0	0	2	5	
ビジネス・地域活性の科目群	実習論 (実習及び家庭実習を含む。)	2後		2							1
	ジェンダー論	4後		2							1
	消費生活論	4前		2							1
	マーケティング	2前		2							1
	生涯学習概論	4前		2							1
	地域ブランド論	2前		2			1				
	地域の暮らしと生産	1後		2			2				
	家庭電気・機械及び情報処理	3後		2			1				
	データ解析法 (統計学を含む)	2前		2			1				
	リサーチリテラシー	1前	2				1				
	プレゼンテーション基礎	1後	1								1
	ビジュアルプレゼンテーション演習	2後	1								1
	イベントプロデュース演習	3前		1							1
流行論	2前		2			1					
サブカルチャー論	3後		2			1					
スタジオC (地域活性)	3通		4			3		1			
小計 (16科目)	—	4	27	0	4	0	1	0	1	6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	1後		2							1
	服飾文化論	2前	2							1	
	ファッショントレンド	4前		2							1
	ファッションコーディネート	2前		1							1
	ファッション造形学	2後		2						1	
	アパレル科学	2後		2							1
	アパレル科学実験	3前		2							1
	ファッション造形実習Ⅰ	1後	2							1	1
	ファッション造形実習Ⅱ	3前		2						1	1
	住文化論	2前		2							1
	住居管理論	3前		2							1
	住宅計画	2後		2							1
	インテリアデザインⅠ (住宅)	1後	2				1				1
	インテリアデザインⅡ (商業施設)	3後		2							1
	ベーシックデザイン	2前		2			1				1
	デジタルデザイン演習	2後		1			1				1
	ソーシャルメディア活用Ⅰ (写真)	3前		1			1				1
	ソーシャルメディア活用Ⅱ (動画)	3後		1							1
	スタジオA (空間・情報デザイン)	3通		4			1		1		
	小計 (19科目)	—	8	28	0	1	0	1	0	2	7
食品開発・マネジメントの科目群	化学	1前		2							1
	生物学	1前		2			1				
	食品学	1後		2			1				
	食品学実験	2前		2			1				1
	フードスペシャリスト論	3後		2			1				
	栄養学	2前		2			1				
	調理学	3前		2			1				
	調理学実験	3後		2			1			1	
	基礎調理実習	1前	2				1			1	
	フードコーディネート実習	2前		2						1	1
	ビジュアルマーケティング実習 (販売・カフェ)	2後		2						1	1
	食品衛生学 (食関連法規)	2後		2			1				
	食品衛生学実験	3前		2			1				1
	食品加工学	2前		2			1				
	食品加工学実験	2後		2			1				1
	世界の食文化	1後	2								1
	地域と食文化	3後		2							1
食品機能論	2後		2							1	
商品開発	3前		2							1	
健康と栄養	4前		2							1	
スタジオB (食開発)	3通		4			2					
小計 (21科目)	—	4	40	0	2	0	0	0	2	6	
ビジネス・地域活性の科目群	実習論 (実習及び家庭実習を含む。)	2後		2							1
	ジェンダー論	4後		2							1
	消費生活論	4前		2							1
	マーケティング	2前		2							1
	生涯学習概論	4前		2							1
	地域ブランド論	2前		2						1	
	地域の暮らしと生産	1後		2						2	
	家庭電気・機械及び情報処理	3後		2			1				
	データ解析法 (統計学を含む)	2前		2			1				
	リサーチリテラシー	1前	2				1				
	プレゼンテーション基礎	1後	1								1
	ビジュアルプレゼンテーション演習	2後	1								1
	イベントプロデュース演習	3前		1							1
流行論	2前		2			1					
サブカルチャー論	3後		2			1					
スタジオC (地域活性)	3通		4			3		1			
小計 (16科目)	—	4	27	0	4	0	1	0	1	7	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	教育原理	1後			2	1						
	教職入門	1前			2							1
	教育制度論 (廃止)	1後			2							1
	教育心理学	1後			2			1				
	特別支援教育論	2後			2							1
	教育課程論	3前			2							1
	家庭科教育法A	2前			2							1
	家庭科教育法B	2後			2							1
	家庭科教育法C	3前			2							1
	家庭科教育法D	3後			2	1						
	道徳教育の理論と実践	3後			2							1
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	1						
	特別活動の指導法	3後			2	1						
	教育方法論	2後			2	1						
	生徒指導論	2後			2			1				
	教育相談 (おたけり)を含む。	3前			2							1
	特別指導論 (キャリア教育を含む。)	3後			2			1				
	教育実習指導	4前			1	1		1				
	教育実習A	4前			2	1		1				
	教育実習B	4前			4	1		1				
教職実践演習 (中・高)	4後			2	1		1					
ボランティア活動 (介護等体験実習)	3後			1	1		1					
小計 (22科目)			0	0	44	2	0	1	0	0	7	
合計 (114科目)			47	122	44	5	0	3	0	2	34	

卒業要件及び履修方法

卒業要件: 共通科目24単位以上(うち必修科目10単位,外国語分野から2単位、選択科目12単位以上)、専門科目96単位以上(うち必修科目37単位,選択必修科目4単位,選択科目55単位以上)合計124単位以上修得すること
(履修科目の登録の上限:48単位(年間))
資格要件: 中学校教諭一種免許<家庭> 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位, 教科に関する科目34単位(必修), 教職に関する科目33単位(必修), 教科又は教職に関する科目(選択必修1単位以上)
高等学校教諭一種免許<家庭>免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位, 教科に関する科目34単位(必修), 教職に関する科目29単位(必修)
※教職に関する科目は全て自由科目。
フードスペシャリスト フードスペシャリストになるための必修科目24単位(必修)
※認定試験に合格する必要がある。
商品プランナー 商品プランナーになるための必修科目2単位(必修)
※認定試験に合格する必要がある。
スポーツインストラクター スポーツインストラクターになるための必修科目3単位(必修)
※認定試験に合格する必要がある。
商品装飾展示士3級
※認定試験に合格する必要がある。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	教育原理	1後			2	1						
	教職入門	1前			2							1
	教育制度論 (廃止)	1後			2							1
	教育心理学	1後			2			1				
	特別支援教育論	2後			2							1
	教育課程論	3前			2	1						
	家庭科教育法A	2前			2							1
	家庭科教育法B	2後			2							1
	家庭科教育法C	3前			2							1
	家庭科教育法D	3後			2	1						
	道徳教育の理論と実践	3後			2	1						
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	1						
	特別活動の指導法	3後			2	1						
	教育方法論	2後			2	1						
	生徒指導論	2後			2			1				
	教育相談 (おたけり)を含む。	3前			2							1
	特別指導論 (キャリア教育を含む。)	3後			2			1				
	教育実習指導	4前			1	1		1				
	教育実習A	4前			2	1		1				
	教育実習B	4前			4	1		1				
教職実践演習 (中・高)	4後			2	1		1					
ボランティア活動 (介護等体験実習)	3後			1	1		1					
小計 (22科目)			0	0	44	2	0	1	0	0	7	
合計 (114科目)			47	122	44	5	0	3	0	2	33	

卒業要件及び履修方法

卒業要件: 共通科目24単位以上(うち必修科目10単位,外国語分野から2単位、選択科目12単位以上)、専門科目96単位以上(うち必修科目37単位,選択必修科目4単位,選択科目55単位以上)合計124単位以上修得すること
(履修科目の登録の上限:48単位(年間))
資格要件: 中学校教諭一種免許<家庭> 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位, 教科に関する科目34単位(必修), 教職に関する科目33単位(必修), 教科又は教職に関する科目(選択必修1単位以上)
高等学校教諭一種免許<家庭>免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位, 教科に関する科目34単位(必修), 教職に関する科目29単位(必修)
※教職に関する科目は全て自由科目。
フードスペシャリスト フードスペシャリストになるための必修科目24単位(必修)
※認定試験に合格する必要がある。
商品プランナー 商品プランナーになるための必修科目2単位(必修)
※認定試験に合格する必要がある。
スポーツインストラクター スポーツインストラクターになるための必修科目3単位(必修)
※認定試験に合格する必要がある。
商品装飾展示士3級
※認定試験に合格する必要がある。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	教養分野	潜在能力の開発	1前	2								1
		心理学	1前	2								1
		人間関係とコミュニケーション	2前	2								1
		社会学	3後	2					1			
		生活経済論	1後	2								1
		日本国憲法	3前	2								1
		生活学概論	1後	2								1
		家族論	3前	2					1			
		情報リテラシーⅠ	1前	1			1					1
		情報リテラシーⅡ	1後	1			1					1
		卒業へつなぐアウトリーチスタートアップ	1前	1			5		3			
		卒業へつなぐアウトリーチⅠ	1前	1			5		3			
		卒業へつなぐアウトリーチⅡ	2前	1								
	小計(13科目)	—	10	11	0	5	0	3	0	2	6	
	保健体育分野	運動の科学	1前	2								1
		体育実技	1後	1								1
		小計(2科目)	—	0	3	0	0	0	0	0	0	1
	外国語分野	英語	1前	1								1
		英会話	1後	1								1
		中国語	2前	1								1
		ハンデル	2後	1								1
日本語Ⅰ(未開講)		1前	1								1	
日本語Ⅱ(未開講)		1後	1								1	
小計(6科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0	3		
その他	単位認定A			1								
	単位認定B			1								
小計(2科目)	—	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
専門科目	ライフスタイル学基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	1前	2			5		3			
		ライフスタイル学演習Ⅰ	1前	2			1		2		1	
		ライフスタイル学演習Ⅱ	1後	2			2		1		1	
		ライフスタイル学演習Ⅲ	2前	2			3				1	
		衣生活論	1前	2								1
		食生活論	1後	2			1					
		住生活論	1前	2			1					
		スタジオ入門	2後	2			5		3		2	
		インターンシップ論	2後		1		2					
		インターンシップ	3前		2		1					
		キャリアデザイン講座	3後		2		1					
		卒業研究	4通	4			5		3			
		国内研修旅行	1前	1			1		1			
小計(13科目)	—	21	5	0	5	0	3	0	2	1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	1後	2								1	
		服飾文化論	2前	2				1					1
		ファッショントレンド	4前	2									1
		ファッションコーディネート	2前	1									1
		ファッション造形学	2後	2				1					1
		アパレル科学	2後	2									1
		アパレル科学実験	3前	2							1		1
		ファッション造形実習Ⅰ	1後	2					1		1		
		ファッション造形実習Ⅱ	3前	2					1		1		
		住文化論	2前	2									1
		住居管理論	3前	2									1
		住宅計画	2後	2									1
		インテリアデザインⅠ(住宅)	1後	2			1					1	
		インテリアデザインⅡ(商業施設)	3後	2								1	1
		ベーシックデザイン	2前	2			1					1	
		デジタルデザイン演習	2後	1			1					1	
		ソーシャルメディア活用Ⅰ(写真)	3前	1			1					1	
		ソーシャルメディア活用Ⅱ(動画)	3後	1								1	1
		スタジオA(空間・情報デザイン)	3通	4			1		1				
	小計(19科目)	—	8	28	0	1	0	1	0	2		7	
	食品開発・マネジメントの科目群	化学	1前	2									1
		生物学	1前	2			1						
		食品学	1後	2			1						
		食品学実験	2前	2			1				1		
		フードスペシャリスト論	3後	2			1						
		栄養学	2前	2			1						
		調理学	3前	2			1						
		調理学実験	3後	2			1				1		
		基礎調理実習	1前	2			1				1		
		フードコーディネート実習	2前	2							1		1
		デジタルマーケティング実習(動画・スマホ)	2後	2							1		1
		食品衛生学(食関連法規)	2後	2			1						
		食品衛生学実験	3前	2							1		1
食品加工学		2前	2			1							
食品加工学実験		2後	2			1				1			
世界の食文化		1後	2									1	
地域と食文化		3後	2									1	
食品機能論		2後	2									1	
商品開発		3前	2									1	
健康と栄養	4前	2									1		
スタジオB(食開発)	3通	4			2								
小計(21科目)	—	4	40	0	2	0	0	0	2		6		
ビジネス・地域活性の科目群	実習(実習及び実習指導を含む。)	2後	2									1	
	ジェンダー論	4後	2									1	
	消費生活論	4前	2									1	
	マーケティング	2前	2									1	
	生涯学習概論	4前	2									1	
	地域ブランド論	2前	2					1					
	地域の暮らしと生産	1後	2			1		1					
	家庭電気・機械及び情報処理	3後	2			1							
	データ解析法(統計学を含む)	2前	2			1							
	リサーチリテラシー	1前	2					1					
	プレゼンテーション基礎	1後	1									1	
	ビジュアルプレゼンテーション演習	2後	1							1		1	
	イベントプロデュース演習	3前	1									1	
	流行論	2前	2					1					
	サブカルチャー論	3後	2					1					
	スタジオC(地域活性)	3通	4			2		2					
小計(16科目)	—	4	27	0	3	0	2	0	1		7		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	教育原理	1後			2	1						
	教職入門	1前			2							1
	教育制度論	1後			2							1
	(廃止)											
	教育心理学	1後			2			1				
	特別支援教育論	2後			2							1
	教育課程論	3前			2	1						
	家庭科教育法A	2前			2							1
	家庭科教育法B	2後			2							1
	家庭科教育法C	3前			2							1
	家庭科教育法D	3後			2	1						
	道徳教育の理論と実践	3後			2	1						
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	1						
	特別活動の指導法	3後			2	1						
	教育方法論	2後			2	1						
	生徒指導論	2後			2			1				
	教育相談 (※カゼンを含む。)	3前			2							1
	特別指導論 (キャリア教育を含む。)	3後			2			1				
	教育実習指導	4前			1	1		1				
	教育実習A	4前			2	1		1				
	教育実習B	4前			4	1		1				
	教職実践演習 (中・高)	4後			2	1		1				
ボランティア活動 (介護等体験実習)	3後			1	1		1					
小計 (22科目)	—		0	0	44	2	0	1	0	0	0	7
合計 (114科目)	—		47	122	44	5	0	3	0	2	34	

卒業要件及び履修方法

卒業要件：共通科目24単位以上(うち必修科目10単位、外国語分野から2単位、選択科目12単位以上)、専門科目96単位以上(うち必修科目37単位、選択必修科目4単位、選択科目55単位以上)合計124単位以上修得すること
(履修科目の登録の上限：48単位(年間))
資格要件：中学校教諭一種免許<家庭> 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位、教科に関する科目34単位(必修)、教職に関する科目33単位(必修)、教科又は教職に関する科目(選択必修1単位以上)
高等学校教諭一種免許<家庭> 免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位、教科に関する科目34単位(必修)、教職に関する科目29単位(必修)
※教職に関する科目は全て自由科目。
フードスペシャリスト フードスペシャリストになるための必修科目24単位(必修)
※認定試験に合格する必要あり。
商品プランナー 商品プランナーになるための必修科目2単位(必修)
※認定試験に合格する必要あり。
スポーツインストラクター スポーツインストラクターになるための必修科目3単位(必修)
※認定試験に合格する必要あり。
商品装飾展示士3級
※認定試験に合格する必要あり。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・教職課程認定申請上不要となったため、1科目「発達心理学」（2単位）を廃止した。

【令和3年度】

- ・担当者の変更により、「心理学」の「兼任1」の配置から、専任教員等の配置「講師1」に変更。
- ・担当者の変更により、「未来をつなぐアウトリーチスタートアップ」「未来をつなぐアウトリーチI」「ライフスタイル学基礎講座」「スタジオ入門」「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授5」「講師3」から「教授6」「講師2」に変更。
- ・担当者の変更により、「スタジオC（地域活性）」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」から「教授2」に変更。
- ・担当者の変更により、「地域ブランド論」「地域の暮らしと生産」「リサーチリテラシー」「流行論」の専任教員等の配置を「講師1」から「教授1」に変更。

【令和4年度】

- ・担当者の変更により、「食品衛生学」の「兼任1」の配置から、専任教員等の配置「教授1」に変更。
- ・担当者の変更により、「教育課程論」「道徳教育の理論と実践」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任1」にそれぞれ変更。
- ・担当者の変更により、「ファッション造形学」の専任教員等の配置を「講師1」から「兼任1」に変更。
- ・担当者の変更により、「衣生活論」の専任教員等の配置を「兼任1」から「講師1」に変更。

【令和5年度】

- ・担当者の「准教授」昇任により、「心理学」「ライフスタイル学演習II」「教育心理学」「生徒指導論」「進路指導論（キャリア教育を含む）」「教育実習指導」「教育実習A」「教育実習B」「教職実践演習（中・高）」「ボランティア活動（介護体験実習）」の専任教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・担当者の「准教授」昇任により、「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」「未来へつなぐアウトリーチI」「ライフスタイル学基礎講座」「ライフスタイル学演習I」「スタジオ入門」「卒業研究」の専任教員配置を「講師2」から「准教授1」「講師1」に変更。
- ・担当者の変更により、「家族論」担当者を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・「運動の科学」「体育実技」担当者が「兼任」から「兼任」に変更になったが、表記変更はなし。
- ・「教育方法論」「教育原理」「総合的な学習の時間の指導法」「特別活動の指導法」「卒業研究」「ボランティア活動A」「教職実践演習（中・高）」「ライフスタイル学講座」「ライフスタイル学演習III」「スタジオ入門」「スタジオC」「教育実習指導」「教育実習A」「教育実習B」の担当者が変更したが、「教授（専任）」から「教授（専任）」の変更であったため表記の変更はなし。
- ・「アパレル科学」担当者の変更はあったが、「兼任」から「兼任」の変更であったため、表記の変更はなし。
- ・「教職入門」「教育制度論」「特別支援教育論」「教育課程論」の担当者変更はあったが、いずれも「兼任」から「兼任」、「兼任」から「兼任」への変更であったため、表記の変更はなし。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
25 科目	67 科目	23 科目	115 科目	25 科目 [0]	67 科目 [0]	22 科目 [Δ1]	114 科目 [Δ1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						「該当なし」
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	発達心理学	2	1年前期	専門(教職)	選択	教職課程認定申請上不要となったため、代替無
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「発達心理学」(2単位・教職に関する科目)は教職課程認定における事前相談において不要であることが確認されたことから学内で検討の上廃止することとした。家政学部ライフスタイル学科開設前であり、また履修登録前であることから、学生への周知及び学生の履修上の支障はない。学生に配布したシラバスも当初から削除されており、学生が不利益を被ることはない。(2)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{115} = \boxed{0.86} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	共用は、愛知学泉短期大学			
	校舎敷地	0 m ²	6,108 m ²	0 m ²	6,108 m ²				
	運動場用地	0 m ²	30,221 m ²	0 m ²	30,221 m ²				
	小 計	0 m ²	36,329 m ²	0 m ²	36,329 m ²				
	そ の 他	0 m ²	16,315 m ²	0 m ²	16,315 m ²				
	合 計	0 m ²	52,644 m ²	0 m ²	52,644 m ²				
(2) 校 舎	専 用	6,816 m ²	12,125 m ²	7,158 m ²	26,099 m ²	共用は、愛知学泉短期大学			
	(6,816 m ²)	(12,125 m ²)	(7,185 m ²)	(26,099 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	22 室	10 室	14 室	6 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	家政学部 ライフスタイル学科			8 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	学科単位での特定不能のため大学全体の数	
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕					点
	家政学部 ライフスタイル学科	63,684 [3,461] (76,161 [5,506])	470 [110] (470 [110])	1 [0] (1 [0])	1,361 (1,793)	938 (938)	0 (0)		
	計	63,684 [3,461] (76,161 [5,506])	470 [110] (470 [110])	1 [0] (1 [0])	1,361 (1,793)	938 (938)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	1,654m ²		224		171,690				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,762m ²		該当なし						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	※図書購入費及び設備購入費は届出学科全体
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	6,134千円	6,100千円	6,100千円	
	共同研究費等	—	—	設備購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	※図書購入費にはデータベースの整備費(運用コストを含む)を含む。	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,428千円	1,148千円	1,148千円	1,148千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に**赤字**で記入してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		愛知学泉大学									平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
家政学部家政学科											昭和41	-	令和2年度入学生より学生募集停止					
管理栄養士専攻	4	80	0	320	学士(家政学)	-	-	-	-	-	平成14	愛知県岡崎市触越町上川成285						
家政学専攻	4	40	0	160	学士(家政学)	-	-	-	-	-	平成14	同上						
こどもの生活専攻	4	70	0	280	学士(家政学)	-	-	-	-	-	平成20	同上						
現代マネジメント学部	4	-	-	-	学士	-	-	-	-	-	平成23	愛知県豊田市大池町汐取1	平成31年度入学生より学生募集停止					
現代マネジメント学科					(現代マネジメント)													
家政学部																		
管理栄養学科	4	80	0	320	学士(家政学)	0.98	-	0.82	-	-	令和2	愛知県岡崎市触越町上川成285						
ライフスタイル学科	4	40	0	160	学士(家政学)	0.99	-	0.86	-	-	令和2	同上						
こどもの生活学科	4	70	0	280	学士(家政学)	0.63	-	0.56	-	-	令和2	同上						
大学全体	4	190	0	760	-	0.86	-	0.74	-	-	-	-						

大学の名称		愛知学泉短期大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考						
生活デザイン総合学科	2	130	—	260	短期大学士 (地域総合科学)	1.28	—	1.27	—	—	平成16	愛知県岡崎市袖越町上川成285							
食物栄養学科	2	70	—	140	短期大学士 (食物栄養学)	0.88	—	0.89	—	—	昭和25	同上							
幼児教育学科	2	120	—	240	短期大学士 (幼児教育学)	0.57	—	0.56	—	—	昭和54	同上							
大学全体	—	320	—	640	—	0.93	—	0.92	—	—	—	—							

大学の名称		該当なし										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考						
	年	人	年次	人		倍		倍	倍	年度	年度								

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。(様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「—」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<家政学部 ライフスタイル学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専	教授	丹羽 誠次郎 (53) <令和2年4月> 芸術学修士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 住生活論 ライフスタイル学演習 I ※ インテリアデザイン I (住宅) 地域の暮らしと生産 ライフスタイル学演習 III ※ ベーシックデザイン スタジオ入門 デジタルデザイン演習 ソーシャルメディア活用 I (写真) キャリアデザイン講座 スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究	丹羽 誠次郎 (53) <令和2年4月> 芸術学修士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 住生活論 ライフスタイル学演習 I ※ インテリアデザイン I (住宅) 地域の暮らしと生産 ライフスタイル学演習 III ※ ベーシックデザイン スタジオ入門 デジタルデザイン演習 ソーシャルメディア活用 I (写真) キャリアデザイン講座 スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究	丹羽 誠次郎 (54) <令和2年4月> 芸術学修士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 住生活論 ライフスタイル学演習 I ※ インテリアデザイン I (住宅) 地域の暮らしと生産 ライフスタイル学演習 III ※ ベーシックデザイン スタジオ入門 デジタルデザイン演習 ソーシャルメディア活用 I (写真) キャリアデザイン講座 スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究	丹羽 誠次郎 (55) <令和2年4月> 芸術学修士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 住生活論 ライフスタイル学演習 I ※ インテリアデザイン I (住宅) 地域の暮らしと生産 ライフスタイル学演習 III ※ ベーシックデザイン スタジオ入門 デジタルデザイン演習 ソーシャルメディア活用 I (写真) キャリアデザイン講座 スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究	丹羽 誠次郎 (56) <令和2年4月> 芸術学修士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 住生活論 ライフスタイル学演習 I ※ インテリアデザイン I (住宅) 地域の暮らしと生産 ライフスタイル学演習 III ※ ベーシックデザイン スタジオ入門 デジタルデザイン演習 ソーシャルメディア活用 I (写真) キャリアデザイン講座 スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究			
専	教授	相原 英孝 (61) <令和2年4月> 農学博士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 生物学 食品学 ライフスタイル学演習 III ※ 食品学実験 食品加工学 スタジオ入門 インターンシップ論 食品衛生学(食関連法規) 食品加工学実験 インターンシップ 食品衛生学実験 スタジオB(食開発) 卒業研究	相原 英孝 (62) <令和2年4月> 農学博士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 生物学 食品学 ライフスタイル学演習 III ※ 食品学実験 食品加工学 スタジオ入門 インターンシップ論 食品衛生学(食関連法規) 食品加工学実験 インターンシップ 食品衛生学実験 スタジオB(食開発) 卒業研究	相原 英孝 (63) <令和2年4月> 農学博士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 生物学 食品学 ライフスタイル学演習 III ※ 食品学実験 食品加工学 スタジオ入門 インターンシップ論 食品衛生学(食関連法規) 食品加工学実験 インターンシップ 食品衛生学実験 スタジオB(食開発) 卒業研究	相原 英孝 (64) <令和2年4月> 農学博士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 生物学 食品学 ライフスタイル学演習 III ※ 食品学実験 食品加工学 スタジオ入門 インターンシップ論 食品衛生学(食関連法規) 食品加工学実験 インターンシップ 食品衛生学実験 スタジオB(食開発) 卒業研究 食品衛生学実験	相原 英孝 (65) <令和2年4月> 農学博士 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 生物学 食品学 ライフスタイル学演習 III ※ 食品学実験 食品加工学 スタジオ入門 インターンシップ論 食品衛生学(食関連法規) 食品加工学実験 インターンシップ 食品衛生学実験 スタジオB(食開発) 卒業研究 食品衛生学実験			
専	教授	森山 三千江 (61) <令和2年4月> 博士(食品栄養科学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I 基礎調理実習 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習 II ※ 食生活論 栄養学 スタジオ入門 調理学 スタジオB(食開発) フードスペシャリスト論 調理学実験 家庭科教育法D 卒業研究	森山 三千江 (61) <令和2年4月> 博士(食品栄養科学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I 基礎調理実習 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習 II ※ 食生活論 栄養学 スタジオ入門 調理学 スタジオB(食開発) フードスペシャリスト論 調理学実験 家庭科教育法D 卒業研究	森山 三千江 (62) <令和2年4月> 博士(食品栄養科学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I 基礎調理実習 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習 II ※ 食生活論 栄養学 スタジオ入門 調理学 スタジオB(食開発) フードスペシャリスト論 調理学実験 家庭科教育法D 卒業研究	森山 三千江 (63) <令和2年4月> 博士(食品栄養科学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I 基礎調理実習 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習 II ※ 食生活論 栄養学 スタジオ入門 調理学 スタジオB(食開発) フードスペシャリスト論 調理学実験 家庭科教育法D 卒業研究	森山 三千江 (64) <令和2年4月> 博士(食品栄養科学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I 基礎調理実習 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習 II ※ 食生活論 栄養学 スタジオ入門 調理学 スタジオB(食開発) フードスペシャリスト論 調理学実験 家庭科教育法D 卒業研究			
専	教授	近藤 茂明 (64) <令和2年4月> 修士(教育学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 教育原理 ライフスタイル学演習 III ※ スタジオ入門 教育方法論 教育課程論 総合的な学習時間の指導法 スタジオC(地域活性) 道徳教育の理論と実践 特別活動の指導法 ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)	近藤 茂明 (64) <令和2年4月> 修士(教育学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 教育原理 ライフスタイル学演習 III ※ スタジオ入門 教育方法論 教育課程論 総合的な学習時間の指導法 スタジオC(地域活性) 道徳教育の理論と実践 特別活動の指導法 ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)	近藤 茂明 (65) <令和2年4月> 修士(教育学) 未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ I ライフスタイル学基礎講座※ 教育原理 ライフスタイル学演習 III ※ スタジオ入門 教育方法論 教育課程論 総合的な学習時間の指導法 スタジオC(地域活性) 道徳教育の理論と実践 特別活動の指導法 ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)					

専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	龍田 雄次 (55) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシーⅠ 未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅰ※ 国内研修旅行 情報リテラシーⅡ データ解析法(統計学を含む) スタジオ入門 インターシップ論 スタジオC(地域活性) 家庭電気・機械及び情報処理 卒業研究	専	龍田 雄次 (56) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシーⅠ 未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅰ※ 国内研修旅行 情報リテラシーⅡ データ解析法(統計学を含む) スタジオ入門 インターシップ論 スタジオC(地域活性) 家庭電気・機械及び情報処理 卒業研究	専	龍田 雄次 (57) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシーⅠ 未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅰ※ 国内研修旅行 情報リテラシーⅡ データ解析法(統計学を含む) スタジオ入門 インターシップ論 スタジオC(地域活性) 家庭電気・機械及び情報処理 卒業研究	専	龍田 雄次 (58) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシーⅠ 未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅰ※ 国内研修旅行 情報リテラシーⅡ データ解析法(統計学を含む) スタジオ入門 インターシップ論 スタジオC(地域活性) 家庭電気・機械及び情報処理 卒業研究
専	山田 陽平 (40) <令和2年4月> 博士(心理学)	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ 発達心理学 ライフスタイル学演習Ⅱ※ 教育心理学 スタジオ入門 生徒指導論 スタジオC(地域活性) 進路指導論(キャリア教育を含む。) ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)	専	山田 陽平 (41) <令和2年4月> 博士(心理学)	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ 発達心理学 ライフスタイル学演習Ⅱ※ 教育心理学 スタジオ入門 生徒指導論 スタジオC(地域活性) 進路指導論(キャリア教育を含む。) ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)	専	山田 陽平 (42) <令和2年4月> 博士(心理学)	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ 発達心理学 ライフスタイル学演習Ⅱ※ 教育心理学 スタジオ入門 生徒指導論 スタジオC(地域活性) 進路指導論(キャリア教育を含む。) ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)	専	山田 陽平 (43) <令和2年4月> 博士(心理学)	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ 発達心理学 ライフスタイル学演習Ⅱ※ 教育心理学 スタジオ入門 生徒指導論 スタジオC(地域活性) 進路指導論(キャリア教育を含む。) ボランティア活動(介護等体験実習) 教育実習指導 教育実習A 教育実習B 卒業研究 教職実践演習(中・高)
専	西原 麻里 (36) <令和2年4月> 博士(メディア学)	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅱ※ リサーチリテラシー 地域の暮らしと生産 流行論 地域ブランド論 スタジオ入門 家族論 スタジオC(地域活性) 社会学 サブカルチャー論 卒業研究	専	西原 麻里 (36) <令和2年4月> 博士(メディア学)	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅱ※ リサーチリテラシー 地域の暮らしと生産 流行論 地域ブランド論 スタジオ入門 家族論 スタジオC(地域活性) 社会学 サブカルチャー論 卒業研究						
専	近本(市川) 穂子 (61) <令和3年4月> 文学修士	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅱ※ リサーチリテラシー 地域の暮らしと生産 流行論 地域ブランド論 スタジオ入門 家族論 スタジオC(地域活性) 社会学 サブカルチャー論 卒業研究	専	近本(市川) 穂子 (62) <令和3年4月> 文学修士	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅱ※ リサーチリテラシー 地域の暮らしと生産 流行論 地域ブランド論 スタジオ入門 家族論 スタジオC(地域活性) 社会学 サブカルチャー論 卒業研究	専	近本(市川) 穂子 (63) <令和3年4月> 文学修士	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅱ※ リサーチリテラシー 地域の暮らしと生産 流行論 地域ブランド論 スタジオ入門 家族論 スタジオC(地域活性) 社会学 サブカルチャー論 卒業研究	専	近本(市川) 穂子 (63) <令和3年4月> 文学修士	未来へつなぐアクトリーチスタートアップ 未来へつなぐアクトリーチⅠ ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習Ⅱ※ リサーチリテラシー 地域の暮らしと生産 流行論 地域ブランド論 スタジオ入門 家族論 スタジオC(地域活性) 社会学 サブカルチャー論 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	専任 講師	平岩(15歳) 曉子 (50) <令和2年4月> 博士(学術)		専任 講師	平岩(15歳) 曉子 (50) <令和2年4月> 博士(学術)		専任 講師	平岩(15歳) 曉子 (52) <令和2年4月> 博士(学術)		専任 講師	平岩(15歳) 曉子 (53) <令和2年4月> 博士(学術)
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
		未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ1 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習1※			未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ1 ライフスタイル学基礎講座※ ライフスタイル学演習1※			未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ1 ライフスタイル学基礎講座※			未来へつなぐアトリーチスタートアップ 未来へつなぐアトリーチ1 ライフスタイル学基礎講座※
		国内研修旅行 ファッション造形実習Ⅰ 服飾文化論 スタジオ入門 ファッション造形学 ファッション造形実習Ⅱ スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究			国内研修旅行 ファッション造形実習Ⅰ 服飾文化論 スタジオ入門 ファッション造形学 ファッション造形実習Ⅱ スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究			国内研修旅行 ファッション造形実習Ⅰ 服飾文化論 スタジオ入門 ファッション造形実習Ⅱ スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究 衣生活論			国内研修旅行 ファッション造形実習Ⅰ 服飾文化論 スタジオ入門 ファッション造形実習Ⅱ スタジオA(空間・情報デザイン) 卒業研究 衣生活論
	兼任 教授 (学部長)	安藤 明美 (61) <令和2年4月> 修士(保険衛生学)		兼任 教授 (学部長)	安藤 明美 (61) <令和2年4月> 修士(保険衛生学)		兼任 教授 (学部長)	安藤 明美 (63) <令和2年4月> 修士(保険衛生学)		兼任 教授 (学部長)	安藤 明美 (64) <令和2年4月> 修士(保険衛生学)
		潜在能力の開発			潜在能力の開発			潜在能力の開発			潜在能力の開発
	兼任 教授	浦田 葉子 (63) <令和2年4月> 教育学博士		兼任 教授	浦田 葉子 (63) <令和2年4月> 教育学博士		兼任 教授	浦田 葉子 (64) <令和2年4月> 教育学博士			
		英語 英会話 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ			英語 英会話 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ			英語 英会話 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ			
	兼任 教授	前田 裕 (66) <令和5年4月> 修士(教育学)		兼任 教授	前田 裕 (63) <令和5年4月> 修士(教育学)		兼任 教授	前田 裕 (64) <令和5年4月> 修士(教育学)		兼任 教授	前田 裕 (66) <令和5年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論			生涯学習概論			生涯学習概論			生涯学習概論
	兼任 教授	山田 禮子 (63) <令和2年10月> 教育学士		兼任 教授	山田 禮子 (63) <令和2年10月> 教育学士		兼任 教授	山田 禮子 (66) <令和2年10月> 教育学士			
		プレゼンテーション基礎			プレゼンテーション基礎			プレゼンテーション基礎			
	兼任 教授	久保田 英助 (44) <令和2年4月> 博士(教育学)								兼任 准教授	水瀧 利衣 (64) <令和10月> 修士(教育学)、修士(人間科学) 特別支援教育論
		教職入門									
	兼任 教授	濱本 幸宏 (63) <令和2年10月> 商学修士、法学修士		兼任 教授	濱本 幸宏 (63) <令和2年10月> 商学修士、法学修士		兼任 教授	濱本 幸宏 (64) <令和2年10月> 商学修士、法学修士			
		生活経済論 マーケティング 消費生活論			生活経済論 マーケティング 消費生活論			生活経済論 マーケティング 消費生活論			
	兼任 教授	木田 竜太郎 (44) <令和2年4月> 公共経営修士(専門職)		兼任 教授	木田 竜太郎 (44) <令和2年4月> 公共経営修士(専門職)		兼任 教授	木田 竜太郎 (45) <令和2年4月> 公共経営修士(専門職)		兼任 教授	木田 竜太郎 (46) <令和2年4月> 公共経営修士(専門職)
		教職入門 教育制度論			教職入門 教育制度論			教職入門 教育制度論			教職入門 教育制度論
	兼任 講師	長 拓実 (31) <令和3年10月> 修士(教育学)					兼任 講師	長 拓実 (31) <令和3年10月> 修士(教育学)		兼任 講師	長 拓実 (32) <令和3年10月> 修士(教育学)
		家庭科教育法B 家族論						家庭科教育法B 家族論			家庭科教育法B 家族論
	兼任 講師	松浦 俊輔 (35) <令和5年4月> 修士(教育学)					兼任 講師	松浦 俊輔 (35) <令和5年4月> 修士(教育学)		兼任 講師	松浦 俊輔 (35) <令和5年4月> 修士(教育学)
		教職入門 教育概論						教職入門 教育概論			教職入門 教育概論
	兼任 助教	薄入 敏哉 (28) <令和3年4月> 修士(応用生物学)		兼任 助教	薄入 敏哉 (28) <令和3年4月> 修士(応用生物学)		兼任 助教	薄入 敏哉 (29) <令和3年4月> 修士(応用生物学)		兼任 助教	薄入 敏哉 (30) <令和3年4月> 修士(応用生物学)
		化学			化学			化学			化学
	兼任 講師	高田 由基 (39) <令和5年4月> 修士(教育学)					兼任 講師	高田 由基 (39) <令和5年4月> 修士(教育学)		兼任 講師	高田 由基 (39) <令和5年4月> 修士(教育学)
		運動の科学						運動の科学			運動の科学
	兼任 講師	加藤 彰裕 (41) <令和5年10月> 修士(体育学)					兼任 講師	加藤 彰裕 (41) <令和5年10月> 修士(体育学)		兼任 講師	加藤 彰裕 (41) <令和5年10月> 修士(体育学)
		体育実技						体育実技			体育実技
	兼任 講師	服部 壮一郎 (33) <令和5年10月> 修士(教育学)		兼任 教授	藤 拓摩 (51) <令和2年4月> 博士(農学)		兼任 講師	服部 壮一郎 (33) <令和5年10月> 修士(教育学)		兼任 講師	服部 壮一郎 (33) <令和5年10月> 修士(教育学)
		教育制度論			化学			教育制度論			教育制度論
	兼任 講師	彌 天 (24) <令和3年4月> 学士(スポーツ保健医療学)		兼任 講師	彌 天 (24) <令和3年4月> 学士(スポーツ保健医療学)		兼任 講師	彌 天 (26) <令和3年4月> 学士(スポーツ保健医療学)		兼任 講師	彌 天 (26) <令和3年4月> 学士(スポーツ保健医療学)
		体育実技			体育実技			体育実技			体育実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	西川 愛子 (46) <令和2年4月> 修士(教育学)	衣生活論 家庭科教育法B アレル科学 アレル科学実験
兼任	准教授	薬山 欣央 (49) <令和4年4月>	日本国憲法
兼任	講師	坪田 祐基 (30) <令和2年4月> 修士(心理学)	心理学 教育相談(カウンセリングを含む。)
兼任	講師	藤田 正 (47) <令和2年4月> 博士(農学)	化学
兼任	講師	鈴木 幸男 (67) <令和4年4月> なし	食品衛生学実験
兼任	講師	山本 淳子 (55) <令和3年10月> 博士(学術)	食品機能論
兼任	講師	山本 淳子 (55) <令和3年10月> 博士(学術)	食品機能論
兼任	講師	谷村 和秀 (41) <令和3年10月> 修士(社会福祉学)	特別支援教育論
兼任	講師	肥田 満裕 (55) <令和2年4月> 体育学修士	運動の科学 体育実技
兼任	講師	邱 靖福 (59) <令和3年4月> 修士(経営学)	中国語
兼任	講師	白 明学 (49) <令和3年10月> 博士(言語学)	ハンガール
兼任	講師	林 加代子 (60) <令和3年4月> 修士(経営学)	人間関係コミュニケーション
兼任	講師	栗田(大塚) 舞 (36) <令和2年10月> 修士(人間関係学)	生活学概論 家庭科教育法A
兼任	講師	山甲 マキ (48) <令和2年10月> なし	カラーコーディネート
兼任	講師	鈴木 路乃 (35) <令和5年4月> なし	ファッショントレンド
兼任	講師	丸山 眞澄 (62) <令和3年4月> なし	ファッションコーディネート
兼任	講師	西村 和哉 (51) (50) <令和3年4月> 工学士	住文化論 インテリアデザインⅡ(商業施設)
兼任	講師	阿部(工藤) 順子 (51) (49) <令和4年4月> 博士(工学)	住居管理論
兼任	講師	和川 俊英 (66) <令和3年10月> 建築学修士	住宅計画

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	西川 愛子 (46) <令和2年4月> 修士(教育学)	衣生活論 家庭科教育法B アレル科学 アレル科学実験
兼任	准教授	薬山 欣央 (47) <令和4年4月> 修士(法学)	日本国憲法
兼任	講師	坪田 祐基 (30) <令和2年4月> 修士(心理学)	心理学 教育相談(カウンセリングを含む。)
兼任	講師	鈴木 幸男 (65) <令和4年4月> なし	食品衛生学実験
兼任	講師	山本 淳子 (54) <令和3年10月> 博士(学術)	食品機能論
兼任	講師	谷村 和秀 (40) <令和3年10月> 修士(社会福祉学)	特別支援教育論
兼任	講師	肥田 満裕 (55) <令和2年4月> 体育学修士	運動の科学 体育実技
兼任	講師	邱 靖福 (59) <令和3年4月> 修士(経営学)	中国語
兼任	講師	白 明学 (48) <令和3年10月> 博士(言語学)	ハンガール
兼任	講師	林 加代子 (59) <令和3年4月> 修士(経営学)	人間関係コミュニケーション
兼任	講師	栗田(大塚) 舞 (36) <令和2年10月> 修士(人間関係学)	生活学概論 家庭科教育法A
兼任	講師	山甲 マキ (48) <令和2年10月> なし	カラーコーディネート
兼任	講師	鈴木 路乃 (32) <令和5年4月> なし	ファッショントレンド
兼任	講師	丸山 眞澄 (61) <令和3年4月> なし	ファッションコーディネート
兼任	講師	西村 和哉 (51) (50) <令和3年4月> 工学士	住文化論 インテリアデザインⅡ(商業施設)
兼任	講師	阿部(工藤) 順子 (49) (50) <令和4年4月> 博士(工学)	住居管理論
兼任	講師	和川 俊英 (66) <令和3年10月> 建築学修士	住宅計画

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	西川 愛子 (47) <令和2年4月> 修士(教育学)	衣生活論 家庭科教育法B アレル科学 アレル科学実験
兼任	准教授	薬山 欣央 (48) <令和4年4月> 修士(法学)	日本国憲法
兼任	講師	坪田 祐基 (30) <令和2年4月> 修士(心理学)	心理学 教育相談(カウンセリングを含む。)
兼任	講師	鈴木 幸男 (66) <令和4年4月> なし	食品衛生学実験
兼任	講師	山本 淳子 (54) <令和3年10月> 博士(学術)	食品機能論
兼任	講師	谷村 和秀 (41) <令和3年10月> 修士(社会福祉学)	特別支援教育論
兼任	講師	長谷川 大祐 (38) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション学)	運動の科学
兼任	講師	邱 靖福 (59) <令和3年4月> 修士(経営学)	中国語
兼任	講師	白 明学 (49) <令和3年10月> 博士(言語学)	ハンガール
兼任	講師	林 加代子 (60) <令和3年4月> 修士(経営学)	人間関係コミュニケーション
兼任	講師	栗田(大塚) 舞 (37) <令和2年10月> 修士(人間関係学)	生活学概論 家庭科教育法A
兼任	講師	山甲 マキ (49) <令和2年10月> なし	カラーコーディネート
兼任	講師	鈴木 路乃 (33) <令和5年4月> なし	ファッショントレンド
兼任	講師	丸山 眞澄 (62) <令和3年4月> なし	ファッションコーディネート
兼任	講師	西村 和哉 (51) (51) <令和3年4月> 工学士	住文化論 インテリアデザインⅡ(商業施設)
兼任	講師	阿部(工藤) 順子 (50) (50) <令和4年4月> 博士(工学)	住居管理論
兼任	講師	和川 俊英 (66) <令和3年10月> 建築学修士	住宅計画

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	西川 愛子 (48) <令和2年4月> 修士(教育学)	アレル科学実験
兼任	講師	内田 有紀 (49) <令和4年4月> 修士(教育学)	アレル科学
兼任	講師	大久保 里香 (67) <令和3年10月> 専攻学士	食品機能論
兼任	講師	谷村 和秀 (42) <令和3年10月> 修士(社会福祉学)	特別支援教育論
兼任	講師	長谷川 大祐 (34) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション学)	運動の科学
兼任	講師	邱 靖福 (60) <令和3年4月> 修士(経営学)	中国語
兼任	講師	林 加代子 (61) <令和3年4月> 修士(経営学)	人間関係コミュニケーション
兼任	講師	栗田(大塚) 舞 (38) <令和2年10月> 修士(人間関係学)	生活学概論 家庭科教育法A
兼任	講師	山甲 マキ (51) <令和2年10月> なし	カラーコーディネート
兼任	講師	鈴木 路乃 (34) <令和4年10月> なし	ファッショントレンド ファッション造形学
兼任	講師	丸山 眞澄 (63) <令和3年4月> なし	ファッションコーディネート
兼任	講師	西村 和哉 (52) (52) <令和3年4月> 工学士	住文化論 インテリアデザインⅡ(商業施設)
兼任	講師	早川 聖希 (36) <令和4年4月> 博士(建築学)	住居管理論
兼任	講師	和川 俊英 (67) <令和3年10月> 建築学修士	住宅計画

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	内田 有紀 (49) <令和4年4月> 修士(教育学)	アレル科学 アレル科学実験
兼任	講師	大久保 里香 (69) <令和3年10月> 専攻学士	食品機能論
兼任	講師	長谷川 大祐 (34) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション学)	運動の科学
兼任	講師	邱 靖福 (61) <令和3年4月> 修士(経営学)	中国語
兼任	講師	林 加代子 (62) <令和3年4月> 修士(経営学)	人間関係コミュニケーション
兼任	講師	栗田(大塚) 舞 (38) <令和2年10月> 修士(人間関係学)	生活学概論 家庭科教育法A
兼任	講師	山甲 マキ (51) <令和2年10月> なし	カラーコーディネート
兼任	講師	鈴木 路乃 (35) <令和4年10月> なし	ファッショントレンド ファッション造形学
兼任	講師	丸山 眞澄 (64) <令和3年4月> なし	ファッションコーディネート
兼任	講師	西村 和哉 (52) (52) <令和3年4月> 工学士	住文化論 インテリアデザインⅡ(商業施設)
兼任	講師	早川 聖希 (37) <令和4年4月> 博士(建築学)	住居管理論
兼任	講師	和川 俊英 (67) <令和3年10月> 建築学修士	住宅計画

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・兼任の久保田教授 就任辞退により、後任として兼任の木田教授が就任。
- ・兼任の横田講師 就任辞退により、後任として兼任の館教授が就任。

【令和3年度】

- ・西原講師（専任）の辞任に伴い、近本教授（専任）に担当者変更。
- ・「心理学」の担当者を坪田講師（兼任）から山田講師（専任）に変更。
- ・「運動の科学」の担当者を肥田講師（兼任）から長谷川講師（兼任）に変更。
- ・「体育実技」の担当者を肥田講師（兼任）から堀講師（兼任）に変更。
- ・「ライフスタイルⅠ」の担当者を平岩講師（専任）から山田講師（専任）に変更。
- ・「ライフスタイルⅡ」の担当者を山田講師（専任）から平岩講師（専任）に変更。
- ・「化学」の担当者を館教授（兼任）から澤入助教（兼任）に変更。
- ・「食品機能論」の担当者を山本講師（兼任）から大久保講師（兼任）に変更。
- ・「保育論（実習及び家庭看護を含む。）」の担当者を高木講師（兼任）から小田講師（兼任）に変更。
- ・「教育制度論」の担当者を服部講師（兼任）から木田教授（兼任）に変更。

【令和4年度】

- ・近藤教授（専任）の辞任に伴い、竹澤教授（専任）に担当者変更。ただし「教育課程論」の担当者は木田教授（兼任）、「道德教育の理論と実践」の担当者は前田教授（兼任）に変更。
- ・西川准教授（兼任）の辞任に伴い、「衣生活論」の担当者を平岩講師（専任）に、「家庭科教育法B」の担当者を長講師（兼任）、「アパレル科学」の担当者を内田講師（兼任）にそれぞれ変更。
- ・「ファッション造形学」の担当者を平岩講師（専任）から鈴木講師（兼任）に変更。
- ・「アパレル科学実験」担当者の西川准教授（兼任）の役職を講師（兼任）に変更。
- ・「ハングル」の担当者を白講師（兼任）から金講師（兼任）に変更。
- ・「住宅管理論」の担当予定だった阿部講師（兼任）の辞任により早川講師（兼任）が就任。
- ・「家庭科教育法C」の担当予定だった伊澤講師（兼任）の辞任により三輪講師（兼任）が就任。
- ・濱本教授（兼任）の辞任に伴い、「生活経済論」「マーケティング」「消費生活論」の担当者を村田講師（兼任）へ変更。
- ・柴山准教授（兼任）の辞任に伴い、「日本国憲法」の担当者に漆原講師（兼任）が就任。
- ・浦田教授（兼任）の辞任に伴い、「英語」「英会話」「日本語Ⅰ・Ⅱ」の担当者を西川講師（兼任）に変更。
- ・山田教授（兼任）の辞任に伴い、「プレゼンテーション基礎」の担当者を高谷講師（兼任）に変更。

【令和5年度】

- ・竹澤教授（専任）の辞任に伴い、小野教授（専任）に担当者変更。
- ・山田講師（専任）は准教授へ昇任。
- ・「家族論」担当者を近本教授（専任）から長講師（兼任）に変更。
- ・木田教授（兼任）の辞任に伴い、「教職入門」「教育課程論」の担当を松橋講師（兼任）に変更。ただし、「教育制度論」の担当は服部講師（兼任）に変更。
- ・西川講師（兼任）の辞任に伴い、「アパレル科学入門」の担当を内田講師（兼任）に変更。
- ・谷村講師（兼任）の辞任に伴い、「特別支援教育論」の担当を永津准教授（兼任）に変更。
- ・長谷川講師（兼任）の辞任に伴い、「運動の科学」の担当を高田講師（兼任）に変更。
- ・堀講師（兼任）の辞任に伴い、「体育実技」の担当を加藤講師（兼任）に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	6
	3
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
5	0	3	0	8	2	6	1	1	0	8	2
(5)	(0)	(3)	(0)	(8)	(2)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
6	1	1	0	8	2	6	1	1	0	8	2
[1]	[1]	[Δ2]	[0]	[0]	[0]	[1]	[1]	[Δ2]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{2}{2} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
							「該当なし」
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	講師	西原 麻里	R3.3	必修	未来へつなぐアクトリーナスタートアップ	①	他大学への転出のため(3)
				必修	未来へつなぐアクトリーナ1	①	
				必修	ライフスタイル学基礎講座※	①	
				必修	ライフスタイル学演習Ⅱ※	①	
				必修	リサーチリテラシー	①	
				選択	地域の暮らしと生産	①	
				選択	流行論	①	
				選択	地域ブランド論	①	
				必修	スタジオ入門	①	
				必修	家族論	①	
				選択	スタジオC(地域活性)	①	
				選択	社会学	①	
				選択	サブカルチャー論	①	
2	教授	近藤 茂明	R4.3	必修	未来へつなぐアクトリーナスタートアップ	①	R4.3.31付け自己都合のため辞任(4)
				必修	未来へつなぐアクトリーナ1	①	
				必修	ライフスタイル学基礎講座※	①	
				自由	教育原理	①	
				必修	ライフスタイル学演習Ⅲ※	①	
				必修	スタジオ入門	①	
				自由	教育方法論	①	
				自由	教育課程論	②	
				自由	総合的な学習時間の指導法	①	
				選択	スタジオC(地域活性)	①	
				自由	道德教育の理論と実践	②	
				自由	特別活動の指導法	①	
				自由	ボランティア活動(介護等体験実習)	①	
				自由	教育実習指導	①	
				自由	教育実習A	①	
3	教授	竹澤 伸一	R5.3	必修	未来へつなぐアクトリーナスタートアップ	①	R5.3.31付け自己都合のため辞任(5)
				必修	未来へつなぐアクトリーナ1	①	
				必修	ライフスタイル学基礎講座※	①	
				自由	教育原理	①	
				必修	ライフスタイル学演習Ⅲ※	①	
				必修	スタジオ入門	①	
				自由	教育方法論	①	
				自由	総合的な学習時間の指導法	①	
				選択	スタジオC(地域活性)	①	
				自由	特別活動の指導法	①	
				自由	ボランティア活動(介護等体験実習)	①	
				自由	教育実習指導	①	
				自由	教育実習A	①	
				自由	教育実習B	①	
				必修	卒業研究	①	
自由	教職実践演習(中・高)	①					

合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	20	科目	必修	20	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	7	科目	選択	0	科目
		自由	20	科目	自由	18	科目	自由	2	科目
		計	47	科目	計	45	科目	計	2	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	20	科目	必修	20	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	7	科目	選択	0	科目
		自由	20	科目	自由	18	科目	自由	2	科目
		計	47	科目	計	45	科目	計	2	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{8} = 37.5\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 西原麻里講師の辞任について、当該教員の担当予定科目の担当可能な後任の専任教員を採用した。なお、教員交代の周知については年度初めのオリエンテーション、シラバス等での周知を行った。(3)
 ・ 近藤重明教授の辞任について、当該教員の担当予定科目をほぼ担当可能な後任の専任教員を採用した。なお、教員交代の周知については年度初めのオリエンテーション、シラバス等での周知を行った。(4)
 ・ 竹澤伸一教授の辞任について、当該教員の担当予定科目をほぼ担当可能な後任の専任教員を採用した。なお、教員交代の学生に対する周知については年度初めのオリエンテーション、シラバス等での周知を行い、教学上の問題はなかったと考えている。(5)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。(家政学部こどもの生活学科)	【届出】 遵守事項 令和3年度は、定年規程に定める退職年齢に達した専任教員の1名が退職した。引き続き、教員組織編成の年齢バランスを考慮し、教員補充を進めていく。	履行中 学科の教育課程上、必要な教員の教育研究実績等を踏まえ、教育研究の継続性に支障のないよう教員補充を行っていく。
設置計画履行状況 調査結果 (令和2年度)	・教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。(家政学部こどもの生活学科)	【AC】 指摘事項 (改善) 学生確保に向けたあらゆる取り組み(系列校及び教育連携校との協議、入試説明会、高校訪問、オープンキャンパス等)を実施した結果、令和3年度の定員超過率0.75倍となり、昨年度の0.37倍から改善したものの、適切な入学者の確保には結びついていない状況である。	履行中 次年度入試においても、学生確保に向けた取り組みを継続し、適正な入学者の獲得に全力を尽くす。
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年度)	・教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。(家政学部こどもの生活学科)	【AC】 指摘事項 (改善) 教育内容の充実を図り、教員採用試験の合格者の増加を目指し一般教養、論文・面接指導を行った結果小学校教員4名、幼稚園教諭・保育士20名で卒業生の9割は教員および福祉関係に就職している。また2022年度における系列校及び教育連携校との具体的な活動を立案、入試説明会、高校訪問、オープンキャンパス等を実施した結果、令和4年度の定員超過率0.66倍で、一昨年度より改善をしたが、適切な入学者の確保には結びついていない状況である。	履行中 次年度は、教育内容の充実をさらに図り、入試においても、学生確保に向けた取り組みを継続し、適正な入学者の獲得に全力を尽くす。
設置計画履行状況 調査結果 (令和4年度)	・教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。(家政学部こどもの生活学科)	【AC】 指摘事項 (改善) 教育内容の充実をさらに図った結果、専門職として就職した学生の増加につながった(小学校教員8名、幼稚園教諭・保育士24名)。この活動と共に、学生確保に向けた新たな取組みとして、系列高校との単位互換制度新設、オープンキャンパス実施方法の改善、高校訪問の拡充等を行った。その結果、令和5年度の入学定員超過率は0.74倍と前年よりは向上したが、依然回復したとは言えない状況である。	履行中 現在、当該学科のみならず、大学の教育活動を広報するため、SNSを活用した広報活動に重点を置き、高校生へのアピール力を強化する取り組みを展開している。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<家政学部 ライフスタイル学科>

(1) 設置計画変更事項等 【該当なし】

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・愛知学泉大学内部質保証委員会規程
- ・愛知学泉大学FD委員会規程 ※別紙関係規程

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

- ・愛知学泉大学内部質保証委員会
構成員:学長(委員長)、副学長、学部長、各学科長、教務委員長、学生委員長、就職委員長、事務局長、事務長
学長が委員長として、第3クールの日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受ける準備として開催。
- ・愛知学泉大学FD委員会は、FD委員会規程の活動内容について毎月開催。
構成員:学長(委員長)、副学長、学部長、教務委員長、各学科長、事務局長、事務長、IR室長、教務課職員
学部長が中心になってWGを組織し、効率的にFD活動を実施している。

c 委員会の審議事項等

- ・愛知学泉大学愛知学泉大学内部質保証委員会
日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価への対応、大学独自の外部評価に関する事項
- ・3つのポリシー委員会
3つのポリシーの検証、アセスメントポリシーの評価・改善について
- ・愛知学泉大学FD委員会
授業アンケート実施について
学部における組織的な研修会の実施について

② 実施状況

a 実施内容

1. 日本高等教育評価機構による大学機関別認証基準6項目にわたる自己点検・評価活動・各基準の担当者を決め、令和3年度の各種資料データ収集と報告書の作成準備をしている。
2. アセスメントポリシーは、内部質保証委員会で機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの評価をしている。
3. 「学生による授業評価アンケート」については、③に記述する。
4. 公開授業については、FD委員会を中心に対面授業におけるpisa型学力の授業について実施した。全教員が参加している。
5. 新任教員研修は、研修後に新任者研修レポートを作成し、対象教員全員が提出している。
6. 教員の研究・教育活動報告は、2022年度T・Pを全教員が2021年度版をブラッシュアップした。その後、FD委員会で内容確認後HPで公表している。
7. 安城学園報告討論会は、約300名の教職員が参加し、大学、短期大学、高等学校、幼稚園の教育研究活動の現状を把握することで個々の教職員の教育活動の質の改善を図っている。しかし、コロナウイルス感染症予防の観点より全大会の開催を見送りとしている。
9. 学生対応のためのFD研修会を実施
 - ・休学者、退学者の減少に向けて、学生への向き合い方に関する教職協働による研修会を開催し、大学及び短大全教職員が参加した。
 - ・2023年度シラバスの充実を図る研修会を実施し、全教員が参加している。

b 実施方法

1. 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価基準6項目（基準1使命・目的等、基準2学生、基準3教育課程、基準4教員・職員、基準5経営・管理と財務、基準6内部質保証）にわたる自己点検・評価活動を実施し、「愛知学泉大学自己評価報告書」を作成してHPで公表。
2. アセスメントポリシーは、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルで評価。
3. 「学生による授業評価アンケート」は、前後期、全開講科目を対象にマークシートおよび自由記述で実施。
4. 教員間の公開授業は、毎学期、テーマをきめて全教員を対象に実施している（非対面授業（遠隔）におけるpisa型学力の授業展開）。
5. 教員研修は、毎年4月上旬に新任者研修会を実施し、理事長、学部長、事務局長による研修を実施。
6. 教員の研究・教育活動報告は、ティーチング・ポートフォリオ（T・P）、教育研究報告を作成。
7. 安城学園報告討論会は、令和4（2022）年度は新型コロナウイルス感染予防より全大会を中止とした。
8. 学生対応のためのFD研修会は、大学所属のカウンセラーによる学生の現状、対応方法に事例に基づき、全教職員が出席して実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 愛知学泉大学愛知学泉大学内部質保証委員会は不定期に年6回開催した。規程による構成員だけではなく、関係の分掌（教務課、学生課、総務課等）から出席をし、教職協働で会務に当たるようにしている。
2. 愛知学泉大学FD委員会が主催した「シラバスの充実を図る研修会」には、全教員と教務課、IR室員が参加した。また、「休学者・退学者減少に向けた研修会」は大学及び短期大学の全教職員が参加して開催した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・内部質保証に向けた取組みとして、年度の事業計画を検証し直し、修正を加えるなどPDCAサイクルを実践した。
- ・授業への改善は、上記の実施結果を経て、FD委員会を中心に組織的、個別的に行っている。
- ・卒業認定にGPAの活用を検討し、2022年度のFD委員会ではGPA1.0以上を提案した。
- ・成績評価の平準化を検討している。2020年度のFD委員会では過去5年間の全科目の成績評価のGPAを算出し、秀、優、良、可、不可の割合をそれぞれ、10%、30%、35%、25%とした。
- ・全教員に「教育・研究活動に関する事業報告書」より、次年度の改善計画を作成し、実施している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートは、全開講科目で実施している。実施時期は前期・後期ともに14週から15週の授業時に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教員による授業評価アンケート結果を元に授業改善のリフレクションペーパーを作成している。
- 授業評価アンケートは、全開講科目を対象として実施、その後、数値データを集計して結果を出し、各授業に対して出された評価に対して科目担当教員は、評価を1レベル上げる授業改善のリフレクションペーパーを作成、その後、冊子として学生が閲覧できるように図書館窓口と教務課窓口に常置している。
- ・各学科の授業評価アンケートの結果と授業改善報告はHPで公表している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 「該当なし」

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学の自己点検・評価は、平成29年度の日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した。評価の結果、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

総評

「基準1 使命・目的等」について

大学は、経済的・政治的・文化的に自立した社会人の育成によって地域と国際社会に貢献することを使命・目的としており、建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力（課題解決型学力）の三つを核にした独自の教育実践を各学部・学科・専攻の教育目標に反映させ、学内外に明示している。また、社会情勢の変化に対応した教育体制の改編にも努めている。大学の使命・目的及び教育目的の点検や改定は、全学的な取組みとして実施しており、役員及び教職員の理解と支持を得て、学内外への周知が図られている。また、それらは三つの方針（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）や法人の中長期計画に反映されており、その達成のための実践的な教育研究組織が整備されている。

「基準2 学修と教授」について

大学のアドミッションポリシーは受験生や関係者に周知されており、改組を前提とした教育内容の見直しや募集対策の強化など入学定員の確保に努力している。教育課程は教育目的に基づいて編成されており、指導教授制などによる学生の学修支援に加え、休学、退学などに対する生活指導についても、教職員による協働の体制を整えている。単位認定、進級等は、学則、履修の手引きに基準を明示し、厳格に運用されており、GPA(Grade Point Average)制度も活用している。また、社会的・職業的自立につながるキャリア教育にも力を注いでおり、就職支援体制を整備し、高い就職率を維持している。大学設置基準に定める教員数は確保されており、昇任規則等も定められている。FD(Faculty)活動は学部ごとに実施されており、教養教育については「基礎科目」として位置付け整備している。バリアフリーや耐震工事、校舎の改修など教育環境の整備を推進しており、クラス編制については少人数制による工夫を図っている。

「基準3 経営・管理と財務」について

管理運営体制は、寄附行為及び諸規則に基づいて適切に機能しており、大学の使命・目的の実現のための継続的な努力がなされている。各関連官庁からの法改正等について定期的に確認し法令の遵守に努めている。環境保全や人権等に関する各種の規則を整備しており、教育情報や財務情報は学内外に広く公表している。

理事会のもとに、その補佐体制として「常任理事会」を置き、大学の使命・目的の達成に向けての戦略的意思決定が迅速にできる体制を整備している。また、学長のリーダーシップによる大学運営の組織が確保されており、経営部門と教学部門は円滑に連携している。

財務基盤については、中期経営改善計画に基づく経営改善に取組、中期経営改善計画に基づく経営改善に取組んでおり、会計処理及び組んでおり、会計処理及び会計監査も適正に行われている。会計監査も適正に行われている。

「基準4 自己点検・評価」について、自己点検・評価について

自己点検・評価は、学則及び「愛知学泉大学自己点検・自己評価委員会規程」にのっとり、学則及び「愛知学泉大学自己点検・自己評価委員会規程」にのっとり実施しており、日本高等教育評価機構、日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の周期や評価内容を基に、大学機関別認証評価の周期や評価内容を基準にしている。エビデンスについては、自己点検・評価にしている。エビデンスについては、自己点検・評価として大学独自に実施している各評価として大学独自に実施している各部門の「事業報告書」を活用しており、部門の「事業報告書」を活用しており、PDCAサイクルの仕組みとしても機能している。サイクルの仕組みとしても機能している。

平成29(2017)年度より年度よりIR(Institutional Research)(Institutional Research)室が設置され、各部門での管理であら設置され、各部門での管理であったデータの収集と分析の一元化を図っており、自己点検・評価の結果及び内容は全学的なデータの収集と分析の一元化を図っており、ホームページ等によって外部にも公表している。

総じて、大学の教育は、その使命・目的に基づいた各学科の教育目標に向かって適切に運営されており、学修と教授に関しては、運営されており、学修と教授に関しては、独自の教育内容の実践による社会人養成独自の教育内容の実践による社会人養成を目指し大学として大学として、十分に個性を發揮十分に個性を發揮してしている。経営・管理と財務については、法令遵守に努める。経営・管理と財務については、法令遵守に努めながら教育改革めながら教育改革の体制体制の再構築と経営の安定化を目指しておりと経営の安定化を目指しており、自己点検・評価に関し、自己点検・評価に関しても、大学改革の推進力として位置付けても、大学改革の推進力として位置付け、堅実に努力している。堅実に努力している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和5年6月30日 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行する。
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和5年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和6年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。